

学位論文審査の要旨

学位申請者	川崎 采香 人間発達科学専攻2016年度生		論文題目	人生における経験の捉え方: 自伝的記憶・将来の想像・ライフスクリプトの関係の検討
審査委員	主 査:	上原 泉 准教授	インターネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副 査:	石口 彰 教授		「否」の場合の理由
	副 査:	大森 美香 教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	岩壁 茂 教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	今泉 修 助教		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (人文科学)			<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Psychology)			<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について				

学位論文審査・内容の要旨

川崎采香氏は、人生における経験の捉え方をテーマに、自伝的記憶、将来の想像、ライフスクリプトに焦点をあて、若年世代とその親世代を対象に、各内容の特徴を調べるとともに、3つの関係性について分析し、博士論文にまとめられた。この研究テーマは、人の生涯にわたる記憶、人生観と社会文化の発達の関係性に関わっており、海外では近年、注目されつつある研究領域の1つである。認知心理学、発達心理学、臨床心理学と広範囲の心理学領域での貢献も期待される。国内では自伝的記憶に関する研究はなされているものの、将来の想像、ライフスクリプトの研究がほぼなされていない。各内容について生涯発達の視点から検討しているところに、本論文の特徴がある。また、この3つの関係性については、国外でも十分追究されておらず、その点も本論文の特徴といえる。本論文の内容は以下のようにまとめられる。第一に、これまで海外で報告されたことはないが、ポジティブとネガティブの両方の感情を伴う過去の出来事と将来の出来事がどう分布するかを示し、感情的視点からその特徴について明らかにすることができた。第二に、自伝的記憶、将来の想像、ライフスクリプトのいずれにおいても、海外ではみられない内容的特徴を見出すことができた。特に、学校、教育関連の出来事が多く含まれている点が注目された。第三に、従来、ライフスクリプトから自伝的記憶に及ぼす影響についてはよく言及されてきたが、新たな知見として、自伝的記憶からライフスクリプトへの影響、また、ライフスクリプトを介して、自伝的記憶から将来の想像への影響の可能性が示唆された。審査過程と審査結果の概要について述べる。審査当初から論文自体の完成度は高かったものの、審査の過程で一部の審査委員から、文化に関する扱いが不十分であるとの意見が出されるとともに、メリハリをつけた内容になるとわかりやすいとの助言を受けた。その後、それらのコメントや助言を十分考慮し、公開発表時には適切かつ丁寧に修正がなされたことが確認された。公開発表時の発表は、明瞭かつ丁寧になされた。なお、審査過程を通じて英語能力についても審査が行われたが、国際雑誌に第一著者をつとめた論文が掲載されているうえ、国際学会での発表経験があり、英語力は満足のいくレベルに達していると判断された。本審査委員会では、グローバルに活躍できるだけの専門性に基づく発信が今後可能だろうという見解で一致した。以上のとおり、論文の質、発表技量、研究技量、英語力のいずれにおいても、満足のいくレベルに達していることを、最終試験時に本審査委員会を確認することができた。したがって、本審査委員会では全会一致でお茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科の学位、博士(人文科学)、Ph.D. in Psychologyを授与するのに値するものと判断し、合格とした。